

24日のトレーディング・アイデア

6月6日付レポートのタイトルは『[『ギャンブルのすすめ』では決してない理由](#)』だった。その文脈から言えば、本日のこのレポートは「ギャンブルのすすめ」である。

英国の国民投票は、いまだに残留・離脱どちらに転ぶかわからない。ブルームバーグ・ニュースのヘッドラインをみると、「英最新世論調査:EU 残留と離脱が拮抗 - ソロス氏はポンド急落を警告」、「英 EU 残留でも1ドル100円突破へ、離脱なら『大惨事』 - 榊原氏」などの見出しが躍っている。

この期に及んで、「もしも英国が EU 離脱したら株は下げ、残留と決まれば買い戻される」なんてことを言ってもなんの役にも立たない。問題は、どのような行動をとるべきかということだ。

ギャンブルの定義を、「期待値がマイナスなものに賭けること」としてきた。世論調査の結果も当てにはならない。そうすると、そもそも確率を合理的に見積もることができないのだから、「期待値」をはじきようがない。サイコロの丁半博打やコイントスなら(いかさまがなければ)確率は5分5分なのでまだ賭けようがあるが、Brexit の Yes/No に賭けるのは丁半博打より難しい。

それでも賭けようがないわけではない。「賭ける」というのは一種の意思決定であり、われわれは意思決定をするときに理論的・客観的な根拠を必要とする - と思いがちである。しかし、意思決定の理論は、未来の出来事に確率を割り振るとき客観的な根拠を要求してはいない。当たり前だが、確率が主観的でも意思決定はできる。フランク・ナイトの定義する「不確実性」と「リスク」の話だ。

ナイトの言う「リスク」とは確率計算である程度予想できるものであり、それに対してまったく予想もつかないものを「不確実性」とナイトは定義した。世の中一般的には「不確実性」を忌み嫌う傾向があるが、賭け、あるいはギャンブルとは、この「不確実性」というほうのリスクを厭わずとるといふ行為に他ならない。

なんでも賭けの対象にするロンドンのブックメーカーのオッズ(賭け率)から算出した EU 残留確率は、ウィリアム・ヒルが 83%、ベットフェアが 78%と約 8 割の水準にまで上昇した。英ポンドは急上昇し、国民投票の日程が決まった 2 月以来の高値をつけた。呆れるほど弱い日経平均でさえ、3 連騰で 700 円超も戻した。市場は明らかに残留に賭けているようだ。

この流れに乗る、という手がある。特定の誰かの予想を信じるのではなく、ある種の「集合知」である市場を信じて乗ってみる。それでも慎重を期していっぺんに張るのではなく、少しずつ賭け金(ポジション)を積み増していく。

英国の国民投票は 23 日の現地時間朝 7 時から夜の 10 時までで、投票締め切り直後から開票が始まる。これは日本時間 24 日朝 6 時。日本は主要市場のなかでいちばん最初に国民投票の結果に対してリアクションを迫られる市場になる。

結果は寄り付き前から出始める。英選挙管理委員会の予想では日本時間 9 時前に結果が明らかになる地域は 4 選挙区。そのうちのひとつに City of London というど真ん中の地域が含まれる。これが相当程度、参考になるだろう。その後、時間を追うごとに開票が進み、昼までには過半数の地域の結果が判明する。おそらく勝負はそのころまでに決しているのではないかと思う。

英国時間	日本時間	結果発表地域数	累積の割合
00:00~1:00	8:00~9:00	4	1%
1:00~2:00	9:00~10:00	21	6%
2:00~3:00	10:00~11:00	57	21%
3:00~4:00	11:00~12:00	129	53%
4:00~5:00	12:00~13:00	114	81%
5:00~6:00	13:00~14:00	41	92%
6:00~7:00	14:00~15:00	26	98%
7:00~	15:00~	7	100%
合計		399	

(注) 各地域の発表時間見通しの遅い時間を採用

(出所) 英選挙管理委員会よりマネックス証券作成

そこで「残留」に賭けるトレーディング・アイデアだが、例えば日本株で勝負したい場合、流動性のある先物やETFなどを前日に少しだけ買っておく。そして 24 日朝いちばんの開票結果で「残留」優勢ならばポジションをさらに積み増す。逆の結果なら投げる。売りで勝負するのは危険なのでお勧めしない。そうになったら様子見に徹しよう。

目論見通り、残留票が増えてくれば、ポジションを増やしていけばいい。どこかのタイミングで - おそらく11時ごろだと思う - 大規模な買戻しが入ってくるはずだ。それまでにどれだけポジションを積めるかが勝負である。

久しぶりのトレーディング・チャンスだ。腕が鳴る。

言わずもがなだが、投資は自己責任で。うまくいかなくても、苦情はお断り。だって、僕を信じろ、とは一言も言っていない。僕が提案したのは、「市場を信じて流れに乗ってみたら」ということだ。外れて文句を言いたいならば、「市場」にどうぞ。

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会